

## 故郷・母校を想う気持も新たに 支部長 田中克子（昭 32 年卒）

このところ先きが見えない不安な世の中が続きますが、嚶鳴同窓会につきましても、道に光りが差しているように思えます。

その一つは、昨年の母校創立 110 周年記念式典でした。中でも、嚶鳴女声合唱団と西高音楽部の見事に調和した素晴らしい合唱は、嚶鳴の絆が脈々と続いていることを会場一杯に感じさせてくれました。卒業生 23,734 名を母体とする嚶鳴同窓会はきっとこれからも絶えることなく引き継がれていくことと思います。

二つ目は、山形で快挙！初の女性県知事・吉村美栄子さん（昭 45 年卒）の誕生です。故郷から新しい追い風を受け、東京支部もまた新たな気持ちで 2009 年のスタートを切ることができました。その上、この紙面にお忙しいところ新潟県知事さんからご挨拶もいただいております。東京支部会員にとりましては、山形はいつまでも

良い故郷であることを願ってやみません。心から応援していきたいものです。

三つ目は、東京支部はこの数年、会員が参画しやすい新事業の企画・運営等を常に検討を重ねて参りましたが、皆様のご協力のお陰で、ここへ来て定着化し始めました。本当にありがとうございました。

総会準備学年は一世代若い学年にバトンタッチをして 4 年目になります。今年は総会で昔懐かしい第一高女の時代から現在までの母校の姿をスライドでお見せしたいと、意欲的に取り組んでいます。ぜひ皆様のご出席をお待ちしております。

そして、今年の東京支部だよりは、これまでと趣向を変え、各学年の同期会の様子、同窓会への想い等を載せています。皆様に喜んでいただけましたら幸いです。

## 御挨拶

山形県知事 吉村美栄子（昭 45 年卒）



嚶鳴同窓会東京支部の皆様には、益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。皆様には、日頃から郷土山形県の発展のために御尽力をいただいておりますことに対し、深く感謝申し上げます。

私は、さる 2 月に第 50 代山形県知事に就任いたしました。政治や行政運営においては新人ですが、山形を良くしたいとの気持ちは誰にも負けません。「心の通う温かい県政」、「活力溢れる山形」の実現に全力を尽くしますので、よろしく願いいたします。

さて、最近の山形は明るい話題に事欠きません。4 月末には、県の新アンテナショップ「おいしい山形プラザ」が銀座にオープンします。山形の味覚や物産、情報の発信拠点として様々な取り組みを行ってまいりますので、是非 2 度 3 度と足をお運びください。

また、米沢市では、NHK大河ドラマ「天地人」の放映にあわせ、ドラマ関連の展示や上杉家ゆかりの収蔵品等を紹介する「米沢 愛と義のまち 天地人博 2009」が開催されております。なお、例年ゴールデンウィークには「上杉まつり」も開催されます。

さらに、サッカー「モンテディオ山形」の J 1 昇格や、庄内を舞台に撮影された映画「おくりびと」の米アカデミー賞受賞の他、秋には県産トップブランド米として「つや姫」の試験販売も行われます。

皆様には、山形の応援団として、こうした様々な話題をより広く PR していただくとともに、是非この機会に「ふるさと山形」にお出でいただければ幸いです。

最後に、嚶鳴同窓会東京支部の益々の御発展と、会員の皆様の御健勝を御祈念申し上げ、御挨拶といたします。

「おいしい山形プラザ」は 4 月 30 日、東京・銀座 1 丁目・柳通りにオープン！

JR「有楽町駅」徒歩 5 分 地下鉄有楽町線「銀座一丁目駅」5 番、6 番出口徒歩 1 分

問合せ先：山形県東京事務所 03-5212-9026

## 《学年だより》

評議員会でお願いいたしましたところ 21 学年から学年だよりをお寄せいただきました。在学中の思い出や学年の近況など、たっぷりご紹介いたします。

### 米寿を終えてなお元気に

秋葉麻子 (昭 13 年卒)

私共の時代は、結婚はほとんどが親が決め、嫁いだ先には自分の居場所など一つもありませんでした。牛馬のごとく労働力として、子鼠のごとくよく働き廻りました。

実家に帰る前日は、旧友に会えると思うと胸が弾みました。連絡し合っ、乳飲み子を背負って、みんなで集まったものです。癒しのひとときでした。30 歳代には宿泊旅行のクラス会もしました。子どもどころか、

自宅にひとり残しておけない夫まで連れて。

今はその仲間たちもすっかり少なくなってしまうましたが、昨年、同窓会から米寿を祝う会をしていただきました。

私はようやくこの 2~30 年、自分だけの時間が持てるようになりました。年に 2 度の書道展と、ちぎり絵展に出品することを励みに、自分に与えられた時間を大切にしていきたいと思います。

### 激動の女学生時代

仁田秀子 (昭 23 年卒)

昭和 18 年 4 月入学、23 年 3 月卒業。私達同期が第一高女で過ごした 5 年間は特殊な時間でした。一年生から三年生の 8 月 15 日までは戦時中、その後卒業までは戦後の混乱困難の時代です。最も大変なことは、一年生の 3 学期に起こりました。19 年 2 月 23 日の夜、学校が焼失したのです。

女子師範生の一人が放火、と云うショッキングな原因での火事でした。あの日、母と私はゴム長履きで飛び出しました。火に包まれた校舎。沢山の人が必死でバケツリレーをして居り、直ぐ列に加わりました。

翌日、生々しい焼跡を前にした私たちは傷悼のため恰幅の良い体が半分縮んだような小野校長先生を見、「皆さんの大切な学校を焼いてしまい済まない」と詫びられた言葉に号泣しました。

その後、私たちの教室は焼けなかった寄宿舎の畳敷きの部屋と体育館を板で 6 つに区切った場所になりま

した。一年生から三年生にかけては、勤労奉仕の農作業が増えていき、勉強に打ち込む事も出来ませんでした。20 年 8 月 15 日、昭和天皇の玉音放送は女子付属小の体操場に正座して聞き、終戦を知りました。

戦後、それ迄は封じられていた学校復興への強い願いが起り、それは形になりました。各学年から復興委員を選び、縦割りの組織が生まれたのです。先生・保護者有志、全生徒の大会をはじめ、資金作りのバザー、各方面への陳情等々。当時米国の占領下にあった為、教育界を支配していたのはボーガスと云う将校でした。私たちはグループを作りその人や県学務課長のところへ行きました。力を合わせ出来る事は何でも取り組みました。多方面の方達の強い支援も得られ目標に近づき現在西高のある土地に校舎が建てられることを知りました。私たちは喜び卒業しました。

### 「戦争と平和」狭間の 6 年間

小倉董子 (昭 26 年卒)

昭和 20 年 4 月、母や姉の母校第一高女に入学が叶ったものの、戦局は日々厳しさを増し、本土決戦が囁かれていた。私たち新入生は授業はほとんどなく、硬いグラウンドを掘り起こし、千歳山までハケゴを背負って落葉拾いに出かけ、耕した畑に、大豆や南瓜、じゃがいも、ひまし油を栽培する農作業が主な役割だった。

そして、運命的な 8 月 15 日の玉音放送で、戦いは終わった。大人たちは屈辱的な敗戦にショックも大きかったようだが、幼い私たちは、今夜からは電灯の下で、ぐっすり眠れる、そのことだけでうれしかった。

19 年 2 月の校舎焼失で、寄宿舎を改造した畳敷きの教室は、蚤に悩まされたが、少女たちは明るかった。

近在から通学するクラスメートの言葉や習慣の違い、また疎開児童や引き揚げ児童の体験談を聞くにつけ、自分は井の中の蛙であることを認識させられ、好奇心が目覚め始めた。

進駐軍総司令部のお達しで、スポーツや文化面のクラブ活動が奨励されたこともあり、ソフトボール部や登山スキー部を仲間と立ち上げ、経験豊かな教師との出会いに支えられて、青春時代に熱中したことは、わが人生の原点でもある。学制改革に翻弄され、校名は 4 回も変わったが、同じ学び舎で 6 年間苦楽 (校舎復興、新校舎移転 etc) を共に過ごした、先輩、後輩の深い絆を今なお実感できることは、私の心の支えとなっている。

## ■二七の会

穴水玲子 小川英子 (昭27年卒)

昭和21年の春、私たちは晴れて山形第一高等女学校に入学した。戦後の物資欠乏のもと、制服もなくめいめい勝手な服装だったが、唯一「八咫の鏡」を模った校章だけが、女学生となった証だった。

戦災にも遭わなかった山形で、第一高女は放火により全焼。女子師範の寄宿舎をにわか改造し、畳に粗末な長机と、昔の寺子屋さながらの部屋が学び舎だった。

程なくして教育制度が変わり、新制中学が誕生。第四高校併設中学と名は変わった。時代の波に翻弄され、幾多の変遷を経ながら6年間の学生生活は過ぎていく。

あれからもう60年。当時の乙女たちも後期高齢者となった。けれど同期の二七の会(になのかい)は未だ健在である。

## ■一卒会

遠藤倭久 (昭30年卒)

昭和30年西高第一回卒業だから、「一卒会」と命名。今年平成21年は、みんな揃って72歳と73歳。

これまで続けてきた2年毎の同期会は、生きているうち、歩けるうち、楽しいこと探し、想い出作りを心がけ、企画準備が得意な人のおかげで、それはそれは賑やかな楽しい集いが続いています。

昨年は一泊二日の日光旅行。豪雨の中を山交バスでやって来た山形からの人たちと、東京からの人たちが日光駅で合流した途端に雨は止み、晴れ渡った5月の空の下絶好の行楽日和となりました。日光東照宮、奥鬼怒の湯西川温泉から、江戸時代の面影を残す南会津・大内宿と、新緑のなか心に残るいい旅でした。

“ありがとう”これからもよろしく願いいたします。

## ■みろく会

日野ヤウ子 (昭36年卒)

山形で活動している「みろく会」の東京支部を兼ねている。

子育て真っ最中の30年程前に、支部総会の最初の当番を終えた。その後は、夫々の立場での活動が多忙になり音信が絶えがちであった。7年前、二回目の当番が回ってきたのを機会に互いの消息を確かめ連絡を取り合った。山形のみろく会メンバーの力強いサポートに励まされ、無事に総会を終える事ができた。以来、毎年の支部総会には都合のつく人が集まり、旧交を温めている。

東京支部単独で活動する事はないが、山形での「みろく会」には積極的に参加している人が多い。

## ■共学のころ

山本芳子 (昭28年卒)

女学校の西高に男子生徒が学んでいたことをご存知でしょうか。昭和25年入学した私たちは、学制改革のため、一年生の半分は西高で、半分は南高に分かれての授業となりました。「女学校での1年間、花園に舞いおりたようだったなあ」と、当時の男子生徒の方々の言葉です。私たちは二つの学校に同期生がおります。

男女共学が、70代を歩んでいる私たちの心の財産になっており、ふたば会・二八会と合同で同期会を持ったり、旅行も楽しんでおります。

小学校から国民学校と学制が変わり、戦争にも巻き込まれ、戦後は新制中学の初めての一年生となり、激動の時代を歩んだ私たち。限りある命いっぱいにと祈りつつ...

## ■三嚶会

加藤繁子 (昭32年卒)

西高第三回卒業で、三嚶会。

昨年ホテルオークラでの総会の後、山形と東京支部と合流して、「古希を祝う会」を実施しました。

東京支部総会・はとバスでの東京観光・水月ホテル鵜外荘宿泊の3点セット、どこからでも参加自由で、総勢60余名の参加がありました。卒業以来半世紀振りに会う人もおり、再会できた喜びのひとつを和気あいあいのうちに過ごし、思い出多い幸せな一日でした。

急な計画でしたが、「やって良かったネ！」と皆さんから喜ばれ、苦あれば楽あり、盛会に終えられましたことを評議員としてうれしく思っています。

これをきっかけに今年もまた、総会后、宿泊旅行を計画しております。

## ■44会

石垣礼子 (昭44年卒)

44年卒生は44会として東京周辺の人たちを中心に、毎秋集まっている。3年前にむっちゃんこと弁護士の佐藤むつみさんがご主人と独立したのを機に、四谷の住宅地にあるその事務所を専ら利用させていただいている。皆さんには葉書でお知らせするが、ずっと返事のなかった人がひょっこりと出席して下さったりするのが楽しみで、涙あり、笑いあり、みな一気に西高生に戻ってしまう。出席人数は20名前後。気負わず気取らず細々と続けている。昨秋の中庭での芋煮会の味も格別だったが、何といても毎年の目玉はマスこと榎谷博子さんのコーラス指導。私たちの美しいハーモニーが東京の空に流れるのです。歌っても、だらだらと山形弁をしゃべっても、周囲に気兼ねなしがむっちゃんの事務所の良さ。最後は皆で星空をながめるのです。

## ■45年卒

結城洋子

私たちも同窓会の中で年齢的に中間の位置になって来ました。気分的にもゆとりが持て、社会への視野も広がる頃。今年、同学年の吉村美栄子さんが県知事となり活躍され、私たちも勇気と活力をもらった気がしております。困難な問題が山積している時代ですので、出来ることがあれば協力したいと思っています。

例えば、山形県のアンテナショップが銀座に移転し、4月に開店とのこと、皆で利用すれば県活性化の糸口になります。他にも出来ることがありましたら、お知らせ願います。

私たち学年の評議員は何年か続けておりますが、新しい方々に引き受けていただければ、同窓会出席者の輪も広がると期待しています。

## ■覚えていらっしゃるでしょうか？



昭和45年 音楽部定期演奏会のポスターです。当時の定演のポスターは、いつも前田春治先生が描いてくださいました。先生の奥様(昭32年卒)から、大切に保管されていた貴重な一枚を頂戴いたしました。

「誰がモデルなの？」と、話題になったそうです。

## ■今年こそ学年会を

深瀬晶子(昭47年卒)

私どもの学年は70数名が名簿に記載されていますが総会参加は毎年5~7名程度で、ほとんど同じ顔ぶれという状況の中、ここ数年名簿を整理しながら一度学年会をやりたいと考えてきました。五十代半ばを過ぎる今年辺りは、仕事をしている方たちは働き盛りでしょうがそろそろ定年が視野に入ってくる頃でしょうし、お子さんが学生の方でもそろそろご自分の老後が視野に入ってくる頃でしょうから、学年会の第一歩を踏み出すのにはよい時期だとも思われます。

「懐かしい顔ぶれで、懐かしい話に花を咲かせ、楽しいひと時を」ということで、皆さんに連絡をとって少しでも多くの方にお集まりいただきたいと考えています。評議員/黒井希子・竹内ひろ子・深瀬晶子

## ■48年卒

滝口紀子 新井淳子

昭和48年卒業生は女優・演出家等として活躍中の渡辺えりさん(現在の芸名)の学年です。テレビでの彼女の活躍の姿をみるたびに自分の高校時代を思い出す方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そんな仲間同士が気軽に集まり、秋に学年会を開いています。小さなイベントとランチの会です。渡辺えりさんの観劇、世田谷美術館、清澄庭園涼亭、深川江戸資料館、鎌倉、ジョンレノンミュージアム、汐留、恵比寿等での普段着の集まりです。いままで参加できなかった方も、ぜひいっしょに、ちょっとした気分転換をしませんか。ご連絡をお待ちしています。

## ■16年振りの学年会

中島幸子(昭50年卒)

昭和50年卒もそろそろお年頃(50代)。支部総会の準備学年をさせていただいた後、新宿で打ち上げをしてから、もう16年が経ってしまいました。「そろそろみんなで会いたいね。」の声に答え、昨年秋、花の銀座で優雅にランチを楽しみました。

病気になったこと、子どもや老親のこと、一人ひとり抱えていることに違いはあれど、しっかり地に足つけて、まっすぐ前を向いて歩んでいる姿は、さすが西高卒と感じさせてくれる同級生たち。あたたかな空気が心地よく、あっという間に3時間が過ぎてしまいました。

現在、関東在住は70余名で、今回の参加者は20名。町名変更や転居先不明で連絡がつかない人がいたのが残念でした。

## ■学年会で会いましょう

伊藤郁子(昭49年卒)

2年前から、総会の後に学年会を開いています。近くのイタリアンレストランでおいしいお料理とワインをいただきながら、懐かしい思い出話や近況報告、今だから明かせる取っておきの秘話(?)など楽しい話題で盛り上がり、あっという間に時間が経ってしまいます。山形という土地に生まれ育ち、高校時代の思い出を共有する仲間が、また新たな交流を深めることができればこれほど嬉しいことはありません。

今後はお店もいろいろ開拓しながら、もっと同級生の輪を広げていきたいと考えております。そして何より、大本である総会への出席者が増えてくれれば何も言うことはありません。

## ■53年卒

平川範子

53年卒はなかなかの酒豪揃い。同窓会総会では自分たちのテーブルのビールを早々に飲み干し、他のテーブルの余ったビールもいただき、総会後のアンケートに「53年卒のテーブルにはアルコールを増やしてほしい」と書いた事も。

総会後は必ずお茶して帰り、酒欲・食欲・好奇心旺盛な花盛りの元乙女達、今年で祝！半世紀！信長超え。

## ■私たち新人類でした

塚越敏子（昭54年卒）

私たち54年卒は、ほとんどが1960年生まれです。学生生活を終え社会に出たときは新人類と呼ばれ、家庭を持った頃はバブル期、23区はおろか東京都民になることも難しい時代でした。そして回ってきた支部総会の準備学年。掘り起こしても掘り起こしても人員が集まらず、準備学年氷河期の発端を作ってしまいました。

そして10年後に再登板。ぐっと貫禄も増し開き直りもできるようになり、なんとか勤めさせていただきました。今は不定期ながら年一回は食事会を開き旧交を温めています。在学中は交流のなかった人とも気兼ねなく楽しくお話できるのは、同窓会ならではの喜びです。

## ■いつまでもかわらずに

奥山由子（昭59年卒）

高校時代は音楽部に所属していました。その時の同学年の同じパートの仲間とは今でも交流しています。お盆と正月に、県外に出ているメンバーが一人でも山形に帰ると集まれるメンバーが集結します。顔を合わせれば、すぐに10代の頃に逆戻り。

よく話題にでるのは、そのころみんなで回していた交換ノート。今見ると赤面ものですが、思い出がぎっしりです。今でもパートリーダーの手元に保管されています。

今はそれぞれ、育児や仕事やいろんなことに追われている私たちですが、「いつかは、20代の頃のようにみんなで温泉に旅行に行きたいね。」というのが、当面の目標です。

## ■丙午でハッピーハッピー

武田郁（昭60年卒）

わが学年の多くの人たちが、とっても恐ろしい年とされた、丙午年生まれ。

江戸時代、八百屋お七という女性が激しい恋の果てに放火未遂事件を起こしました。お七が丙午年生まれだったため、「丙午生まれの女性は男を食い殺す」という迷信が信じられてきたとか。その60年に一度の「魔の年」は出生率がグッと落ち、私たちはつねに「丙午生まれの女」のレッテルと共に育ちました。

…とは言っても、当の私たちはそんなことはどこ吹く風。むしろ、貴重な干支に生まれたことに誇らしささえ感じながら、のびのびと高校生活を送りました。のびのびしすぎたせいか、当時の校長先生から、「西高史上、最悪に出来が悪い」などと怒られたことも記憶に残っています。

## ■「一日一題」の思い出

伊関美奈子（昭61年卒）

私達が入学した年は生徒が多かったため、例年より1クラス多い7クラス315人での入学でした。生徒が増えても落ちこぼれが出ないように、そして数学が苦手な私達のために始まったのが「一日一題」でした。

黒板の隅に毎日一問ずつ数学の問題が出題され、生徒はその問題をノートに写し、解いていきます。問題を書き写すだけでも大変、解くのはもっと大変。ちょっとサボっているとすぐに溜まってしまい、ノートを提出する前にまとめて書き写すのは本当に大変でした。

これで成績が上がったかどうかは覚えていないのですが、苦手なことでも地道に続けていけば、次第に苦手意識が薄くなっていくということを教えてもらったように思っています。

## ■平成3年卒

岩出路子

私は高校時代音楽部に所属していた。三年間苦楽を共にしてきた仲、特別に会など立ち上げてないが、卒業して20年近く経った今も近況を確かめあっている。

卒業後数年間は山形の仲間と共に天童や上山温泉、時には松島に一泊する機会も多々あった。だが、それぞれ人生の大きな変化の時期に差しかかり、なかなか都合が合わなくなってしまった。最近は仕事で責任ある立場になったり子育てに忙しかったり、ますます集合出来る機会も少なくなった。あと数年間はそれぞれ多忙な日々を過ごす事となるだろう。

皆が落ち着いた頃またゆっくり温泉にでも浸かりながら昔話に花を咲かせ、新たな思い出をつくれればと希望を持ちつつ、目のまわるような忙しい現実の中で頑張ろうと思う今日この頃である。

今年度の総会準備を担当いたします。とはいっても、実はほとんどのメンバーが今回が同窓会デビューとなります。それもそのはず、仕事に家庭にと、まだまだひたすら前をみて突き進まなくてはならない日々を送っているのが私達の現実です。

今回の準備を通して、東京で西高パワーが炸裂していることを知り驚いた私達。転居先不明で戻ってくる手紙に空白の時間の長さを痛感するものの、それでも、一緒に走り抜けた3年間の絆の強さを再確認しました。言葉を交せば、西高時代にタイムスリップしてし

まう。それは久しぶりに味わう心地よい感覚でした。会えば、変わっていないはずがないのに、変わっていない〜と笑顔がこぼれる。離れていても、皆同じくらい懸命に時を重ねてきたからかもしれません。この再会を大切にしたいと思うとともに、皆さまとの出会いに感謝いたします。

今年度も例年のように素晴らしい総会を開催できるように頑張りますので、どうぞご協力をお願いいたします。

平成 20 年度 活動報告

1月 21日	新旧役員会・監査・引継ぎ
2月 4日	第1回評議員会・役員会・総会準備学年（56年卒）会
19日	準備学年打ち合わせ
29日	東京支部プレゼンテーション（同窓会入会式にて）
3月 1日	西高卒業式
22日	第4回ウェルカムパーティ
4月 14日	総会案内状一式配布準備
15日	第2回評議員会・役員会・準備学年会
5月 20日	第3回評議員会・役員会・準備学年会
6月 3日	役員会・準備学年会
7日	総会準備最終打ち合わせ（於：ホテルオークラ）
15日	嚶鳴同窓会東京支部総会
27日	役員会
30日	第4回評議員会・反省会
10月 7日	役員会
10日	準備学年引継ぎ会（56年卒から57年卒へ）
23日	西高創立110周年記念式典
11月 16日	嚶鳴同窓会山形総会

平成 21 年度役員

東京支部長 田中 克子（昭 32 年卒）	顧問 神尾 ひさ（昭 11 年卒）
副支部長 笠井ひで子（昭 44 年卒）	〃 遠藤 倭久（昭 30 年卒）
〃 伊藤 優子（昭 49 年卒）	
庶務 菊地 朝子（昭 41 年卒）	<b>平成 21 年度総会準備学年</b>
〃 青柳 正子（昭 42 年卒）	代表 元木 文緒（昭 57 年卒）
会計 平川 範子（昭 53 年卒）	土門美奈子
〃 四津 明美（昭 54 年卒）	小倉奈恵子
会計監査 岡崎 ヤス（昭 27 年卒）	川崎 敦子
〃 尾原 希子（昭 47 年卒）	

お知らせ

- ◇ 住所や姓が変わられた方は、eメールで手続きができます。
- ◇ ホームページに情報の掲載を希望される方、一筆箋やはがきの購入申し込みをされる方も、eメールをご利用ください。  
同窓会のeメールアドレス [dousokai@oumei.jp](mailto:dousokai@oumei.jp)
- ◇ 年会費の免除について  
山形で11月に行われる嚶鳴同窓会において、喜寿のお祝いに招待された学年は、その翌年から東京支部の年会費が免除になります。  
個人の喜寿とは異なりますが、どうぞご了承ください。

平成 20 年度会計報告

	支部長 田中克子
	会計 佐藤一枝
	〃 平川範子
<b>&lt;一般会計&gt;</b>	
1.収入の部	
前年度より繰越	936,593 円
年会費	1,044,000 円
総会費	2,690,000 円
本部より助成金	50,000 円
ご祝儀	80,000 円
雑収入	17,303 円
計	4,817,896 円
2.支出の部	
会議費	159,292 円
印刷費	51,842 円
事務用品費	34,585 円
通信費	220,240 円
渉外費	136,600 円
役員・準備学年活動費	140,000 円
事業費	
総会	2,872,875 円
ウェルカムパーティ	47,355 円
プレゼンテーション	10,803 円
ホームページ	15,930 円
雑費	3,180 円
計	3,692,702 円
3.差引残高	1,125,194 円
*1月～6月の運営費として、平成21年度へ繰り越し	
<b>&lt;特別会計（一筆箋）&gt;</b>	
1.収入の部	
前年度より繰越	354,191 円
一筆箋売上	91,000 円
はがき売上	72,800 円
計	517,991 円
2.支出の部	
一筆箋印刷	210,000 円
外袋	2,373 円
計	212,373 円
3.差引残高	30,5618 円
*次回印刷費として平成21年度へ繰り越し	
<b>&lt;監査報告&gt;</b>	
帳簿・領収書等を照合の結果、適正に行われていることを認めます。	
会計監査	小倉董子 尾原希子